

下村 元政調会長 動画入手

統一教会 系 会陳情を 「党公約に入れる」



推薦状を受け取る下村氏（鈴木氏SNSより）
山本氏はマザームーンに花束を（鈴木氏SNSより）
自民党が公表した点検結果

名称変更時の文科相だった下村氏

結局、首相が押し切られる形で「全員の公表」は見送られ、折衷案として、関連団体の会合に出席したと申告した議員らの氏名を公開することとなった。

だが、本当に自民党と統一教会との関係について実態説明ができたのか。小誌は今回、各議員の回答に関して徹底検証を実施。その結果、数々の「虚偽」が明らかになったのだ。

その筆頭格が、平井卓也元デジタル相である。

「平井氏は過去に、教団関連イベント『ピースロード』で実行委員長を務めていた。昨年は式典で『世界平和への道』というタスキをかけて主催者挨拶をしていました」（香川県連関係者）

点検では「教団関連団体の会合出席」と「会費類の支出」の二項目を申告した平井氏。一方で「教団主催の会合出席」という項目に名前は無い。しかし、この回答を覆す「証拠」がある。

一七年一月二十二日、平

▶ 平井卓也が隠していた
▶ 山本朋広マザームーン
▶ 回答拒否で逃げる細田
▶ 安倍晋三「統一教会が

教団イベント出席写真
に3回会っていた
議長が買収で告発された
ないと井上が落ちる



その動画には、「点検結果」とは大きく乖離した自民党と統一教会（現世界平和統一家庭連合）の癒着ぶりが収められていた。

任期満了を控え、衆院解散の足音が近付いていた昨年十月九日。東京・板橋区の区立グリーンホールでは、統一教会の古参信者で、国際勝共連合幹部の青津和代氏が「家庭教育支援法実現を！」との演題で、講演を始めようとしていた。

会場には、岸田政権発足で政調会長を退いたばかりの下村博文衆院議員のポスターが貼られている。直前まで下村氏の国政報告会が開かれていたのだ。その余韻も冷めやらぬ中、五十名ほどの聴衆に向かい、青津氏はこう語りかけた。

「ただいま下村博文先生が本当に熱気溢れる、情熱的なコメントをして頂いて。私も十数年前から先生とご統一教会との関係を巡る点検結果を公表した自民党。岸田首相は「重く受け止める」と述べたが、本当に実態を解明できたのか。小誌が入手した一本の動画には、教団側の要望を政調会長が党公約に反映させていく様子が――。

安倍晋三元首相の暗殺から二カ月が過ぎた九月八日。自民党が党所属の国会議員に対して実施していた、統一教会との関係を問う点検結果が公表された。

「質問項目は『教団主催の会合に出席したか』『選挙で支援を受けたか』など八

縁を持たせて頂きまして」
下村氏の後援会組織「博友会」にも名を連ねていたことが、事務所の内部文書から明らかになっている青津氏。この講演でも下村氏がいかに誠実な政治家か、熱弁を振るっていた。

彼女の話は次第に核心へと迫っていく。

「総裁選の（出馬断念を）先生が発表される前々日くらいにお伺いしたんですよね。政調会長室にお伺いした時にですね――」

そして青津氏が口にしたのは、決定的な一言だった。

△ 安倍晋三元首相の暗殺から二カ月が過ぎた九月八日。自民党が党所属の国会議員に対して実施していた、統一教会との関係を問う点検結果が公表された。

「質問項目は『教団主催の会合に出席したか』『選挙で支援を受けたか』など八

井氏の地元である香川県高松市で開催された、教団主催の「真の父母様御聖誕記念礼拝」の記念写真に、来賓用リボンを付けた平井氏が写っているのだ。隣に座るのは、教団トップの徳野英治会長（当時）。平井氏が手にした横断幕には、主催者として「世界平和統一家庭連合 香川教区」とはっきり記されている。

「イベントの出席者は千人ほど。式典は二部構成で第一部は徳野会長の説教、第二部では教団の学生部の劇やダンスが披露されました」（同前）

出席した香川県の地方議員が振り返る。

「地元の方から誘いを受けて行きました。浅はかでしたが、平井先生など国会議員の方々もいらしたから、大丈夫なイベントだろう」と思ってしまった。平井氏に尋ねると、以下のように回答した。

「ご指摘の会合は関連団体からの案内で出席しました。案内状も残っており、党の調査には関連団体の会合出席欄に記載して報告

告しましたが、後ほど記載ミスがわかり、党へは修正報告をしました」

平井氏と同様の「隠蔽」をしていたのが、山本朋広元防衛副大臣。韓鶴子総裁を「マザームーン」と呼んでいたことが明らかにになり、波紋を呼んだ人物だ。

「問題の発言があったのは、一七年五月十四日に開催された『母の日孝情文化フェスティバル』。山本氏は『私もマザームーンにカーネーションの花束をプレゼントさせて頂きました』と語っていました」（前出・政治部記者）

山本氏の韓氏への「奉仕ぶり」は、党内でも随一だ

「秘書を呼びつけて下さって」

点検結果を見ると、山本氏の名前は「教団主催の会合出席」という項目には登場していない。しかし、母の日イベントは統一教会が主催したものだ。その事実が教団のHPにも明確に記載されている。

山本氏に尋ねると、主に以下のように回答した。

という。ジャーナリストの鈴木エイト氏が語る。

「母の日イベントも含め、山本氏は一六年から一七年にかけて三回、韓氏と会っています。一六年二月、教団の有力関連団体である天宙平和連合（UPF）が主導して設立した『世界平和国会議員連合』のカンファレンスと、翌一七年二月に韓国で開催された世界平和国会議員連合の総会です。一七年の総会では、統一教会の教えを国の宗教にするという『国家復帰指令』を、韓氏から直々に受けている。私の知る限り、三回も韓氏と面会している現職の政治家は山本氏だけです」

「自民党調査票について九月二日に提出し、九日にすでに修正しております。当初、関連団体の案内であつたため、同団体の会合の出席と認識していました。しかし、その後確認をしたところ、旧統一教会主催の会合であつたことが判明したので、改めて党本部に点検

山本元防衛副大臣も申告を修正

結果を報告した次第です」

「あえて『関連団体の会合』と回答し、教団との関わりを矮小化したと見られても仕方がありません。こうした申告の修正が相次ぎ、点検結果の信憑性に大きな疑念が生じています」

統一教会との関係を巡り、自民党の政策責任者だった人物に重大な疑いが浮上した。下村博文氏である。

世界日報社が発行する月刊誌のインタビューを大臣在任中に三度も受けるなど、教団との近さが指摘されてきた下村氏。ところが、アンケートへの回答は「寄附やパーティ収入あり」の僅か一項目に留まる。果たして、これは本当なのか。冒頭の場面に戻ろう。

小誌が入手した動画（週刊文春「電子版で公開」）は、昨年十月九日、国際勝共連合幹部・青津氏による講演会。主催は下村氏の元秘書、河野雄紀元都議の後援会。共催は「板橋石神井川クラブ」、そして後援は「西北東京平和大使協議

点検を仕切った茂木幹事長



岸田派の平井元デジタル相

会」。平和大使協議会はUPFの付設機関だ。

その場で青津氏は、下村氏との「十数年前からの縁」を語り、その人柄や手腕を絶賛。話はこう続く。

「選挙のたびに、マニフェストに載せていただくように。『青少年健全育成法』と『家庭教育支援法』は、何としても自民党が達成して頂きたいということで。政調会長室に今回も伺いましたし、議員会館の方にも伺いました。私も色んな代議士の先生とお会いしましたけど、よく調べられるし、覚えていらつしやる」

動ビジョン2020でも、目標として『家庭教育強化のための条例・基本法』制定が掲げられていた。青津氏はこうした政策を自民党の公約に盛り込むよう、選挙のたびに下村氏に「陳情」していたと明かしたのだ。

話題は、直近の出来事に関連して。党総裁選への立候補を模索していた下村氏が、断念を表明した昨年九月九日の「前々日くらい」のこと。下村氏は当時、政調会長だった。

「政調会長室にお伺いしたときにですね、事務方の秘書を呼びつけて下さって。『家庭教育支援法、青少年健全育成基本法を必ず入れるように』ということ。文面もちゃんとお渡しすることができまして、非常に誠意をもって対応して下さいました」

青津氏が政調会長室を訪れたのは、十月二十一日の衆院議員の任期満了まで二カ月を切ったタイミング。そこで再び陳情を受けた下村氏は、わざわざ事務方を呼びつけ、党の公約に彼らの政策を「必ず入れるよ

う」指示したというのだ。

実際、どうなったのか。

「家庭教育支援法と青少年健全育成法については、自民党は一七年十月の衆院選で政権公約や党政策集に制定を記しています。下村氏は昨年十月一日に政調会長を退くものの、ギリギリまで公約作りを進めていた。主だった政策は後任の高市早苗氏に引き継がれ、十月十九日公示の衆院選でも、教団側が要望した二つの政策は公約として明記されま

国政報告会に教団青年部長が

青津氏の講演会直前まで行われていたのは、下村氏本人の国政報告会だった。

折しも、衆院解散を五日後に控えたタイミング。このとき撮影された写真では、青津氏らに囲まれた下村氏が笑顔で浮かべている。だが、この写真には重大な事実が隠されているのだ。

支援者として写真に納まる一人の男性。青津氏の講演会を共催した「板橋石神井川クラブ」で代表を務めるA氏だ。だが、彼の肩書

した」（前出・デスク）

青津氏は長年にわたって下村氏への陳情を続け、結果として統一教会側の政策が政権与党の公約に盛り込まれたことになる。単に関連団体の会合に祝電を送ったり、出席したなどの接点とは別次元の問題だ。

ではなぜ、下村氏は社会的な問題を抱える団体だったにもかかわらず、彼らの要望に応じてきたのか。背景にあると見られるのが「選挙協力」である。

きはそれだけではない。A氏のSNSには、自身のプロフィールとして「世界平和統一家庭連合 青年部長」と記されている。前出の鈴木エイト氏は言う。

「青年部長は、地域の青年部をまとめる重要ポジションです。A氏は国際勝共連合の学生部隊である『UNITE IKBUKURO』を率いていたこともあり、写真の中で下村氏は、額装された証書を手にしている。写真からは文字をは

きり読み取れないが、

「『世界平和連合』の推薦状に見えます。梶栗氏の名前の位置など、他議員への推薦状とフォーマットが極めて近いからです」（同前）

世界平和連合は国際勝共連合、UPFとともに、梶栗正義氏がトップを務める教団の三大有力団体の一つ。選挙の直前、その有力団体から推薦状を得ていたとすれば、「組織的支援」を受けていたと考えるのが自然だろう（世界平和連合からは回答がなかった）。

まして下村氏の場合、事務所の内部文書を基に小誌が報じたように、複数の教団関係者が文科相在任中の「支援者名簿」に名を連ねていたり、収支報告書に載らない形でパーティ券を購入したりしてきたのだ。

「統一教会や関連団体側としては、文科相や党政調会長を歴任する下村氏はキーパーソン。かつて選挙区では、教団の天敵・有田芳生氏と戦ったこともあり、それだけ下村氏を支援する動機が強かったと言えます」（都連関係者）

告発状

松江 地方検察庁 御中

被告 氏名 島根県松江市 細田博之
生年月日 1944年（昭和19年）4月5日
職業 衆議院議員、自由民主党島根県第一選挙区支部 支部長（代）

告発の趣旨

2021年10月31日執行の第49回衆議院議員総選挙の島根県1区自由民主党公認候補として立候補し当選した細田博之衆議院議員（同選挙区に細田博之候補の出納責任者であった）について、下記「第1の事実」に記載する各行為は、下記「第2 罪名及び罰則」記載の各出納責任者たるため、早急に捜査のうえ厳重に処罰していただくよう告発する。

松江地検に提出された細田氏への告発状

ところが、点検結果には「選挙におけるボランティア支援」「教団や関連団体への選挙支援の依頼、及び組織的支援、動員等の受け入れ」を問う項目に下村氏の名前は見当たらない。下村氏に事実関係の確認を求めたところ、主に以下のように回答した。

「（青津氏が政調会長室を訪問した日は）一般社団法人教育問題国民会議の理事と面会をしました。ご指摘の方（青津氏）は事務局として随行されていたのだと思います。（党公約に入れる）指示については、ご指摘の講演は聴講していないので、わかりません。

（世界平和連合からの推薦状については）旧統一教会の

関係団体からボランティア支援を含めて選挙支援の事実はありません。(A氏は)存じ上げません」

かように、点検結果を覆すような事態が頻発する自民党。その意味でなお深刻な問題は、距離の近さが最も指摘されてきた二人の政治家が点検の「対象外」となっていることだ。

「その一人が、細田博之衆院議長です。理由は、議長のため自民党会派から離脱しているというもの。そのことを会見で追及された茂木氏は『議長をお辞めになった後、党に戻るか確認していない』と弁明してしま

した」(自民党担当記者)

清和会を率いていた一九九十年十月には、UPFが開催した国際会議で「韓鶴子総裁の提唱によって実現したこの会議の場は、大変意義深い」と述べていた細田氏。翌二〇年に結成され、梶栗氏が顧問に名を連ねる「日本・世界平和議員連合」でも名誉会長に就いている。「この議連は昨年、梶栗氏を交えての総会を議員会館で行うなど、教団に『お墨

付き』を与えるような活動をしてきたことが問題視されています」(同前)

さらに小誌は今年八月、細田氏が選挙で教団側からの「応援」を受けていたという証言を得ている。細田氏の選挙で長年、選対本部長を務めてきた細田重雄県議がこう語っていたのだ。「家庭連合の信者さんは、昔から細田博之さんを応援している」

前出の政治部デスクが指摘する。「中立が求められる議長と

「買収の横行が危惧される」

今年八月二日、公職選挙法違反(運動員買収)で松江地検に告発状が提出されたのだ。公職選挙法で無報酬と定められた選挙運動従事者に「労務費」を支払っていたなどと指摘した上で、こう記されている。

「本件買収が刑事事件として立件されなければ(略)同様の報酬の支払い買収が全国で横行するのではないかと危惧される」

小誌は細田事務所に、教

団との関係や選挙応援、アソシエイト逃れなどについて尋ねる質問状を送付したが、今回も回答はなかった。

そしてもう一人、実態解明に欠かせない最重要人物がいる。それが、安倍元首相だ。岸田首相は、閉会中審査で「お亡くなりになった今、確認するには限界がある」と強調し、調査に否定的な見解を示したが、

「安倍氏は生前、梶栗氏や

元教団会長の小山田秀生氏らと直接、議員会館で対面するなどしてきました。他方、統一教会を党総裁として差配してきたのも、安倍氏に他なりません。教団は七万八千の票を持って

いるとされ、参院選の比例区では少なくとも一人当選させる力がある。選挙に人一倍心血を注いでいた安倍氏は、その教団票を清和会の議員に割り振りしてきたのです」(自民党関係者)

一二年十二月に第二次安倍政権が発足。以降、一三年の参院選では北村経夫氏、一六年の参院選では宮島喜文氏、そして今夏の参院選では、第一次安倍政権で首相秘書官を務めた井上義行氏に割り振ってきた。

「ただ、井上氏は統一教会への『接近』を超え、賛同会員になったこともあり、安倍氏の周りではいつも以上に懸念の声が上がっていました」(安倍氏側近)

それでも安倍氏は意に介さなかった。参院選が公示されてから間もなく、こう口にしていたという。「井上さんが落っこちたら

可哀想だろ。これは、ただの票の割り振りだから。野党でもやっているよ」

「統一教会がないと井上が落ちる」との読み通り、井上氏は落選した前回参院選から約八万票を増やして当選。その直前、安倍氏は命を落とすことになった。

「安倍氏は祖父、父の代から教団側と付き合いがあったこともあり、霊感商法などの問題も把握してしました。にもかかわらず、選挙協力を優先させ、密接な付き合いを続けていた。ここに斬り込まない限り、自民党と統一教会の組織的な癒着を解明することはできません」(前出・自民党関係者)

今回、小誌が点検しただけで浮かび上がった数々の「虚偽申告」。各議員はどのような経緯で教団の会合に出席したのか。組織的な選挙協力の見返りに、教団側に便宜を図ったり、政策を企めたりすることは無かったのか。岸田首相が本気で「統一教会との関係を断ち切る」つもりならば、自己申告に任せるのではなく、踏み込んだ再調査が必要だ。

「安倍元首相も応援している」嘘もOK

フリーライター

信者家族の告白 石井謙二郎

「脱会を阻む恐怖洗脳」



合同結婚式で「祝福、を与える教祖夫妻

の見た目の変わりように驚いた。おしゃれが好きだったのに古びた洋服で、髪型にも無頓着になったからだ。眼差しも、吊り上がるようにきつくなった。いつもお腹を空かせ、食パンの袋を開けるなり丸ごと一斤食べてしまうこともあった。

両親は脱会するように説得を試み、娘は「脱会する」と偽って逃げる。そんなことが五回も繰り返された。両親は脱会カウンセリングの専門家の助力を仰ぐと決

め、娘と真剣に向き合うために父は会社を早期退職した。娘が脱会した後の手記で、父は振り返っている。

「心の問題であることに深く思いを致さず、単に統一教会から本人を離せばよいという形ばかりにこだわっていたのだ。本人の気持ち

を心から理解しようとする努力、家族中で本心から話し合える家庭を作り上げる努力、そんなところが欠けていたように思う」

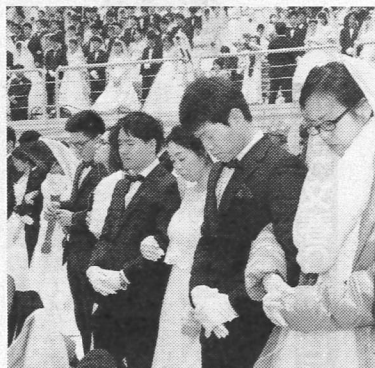
統一教会の信者は、山上容疑者の母と同じく、「壮婦」と呼ばれる中高年の女性を中心だ。

「統一教会は『幸せな家庭づくり』を表面のモットーに掲げ、どこか家庭にもある小さな問題をほじくり出して大袈裟に言い募り、解決するには信仰が必要だと偽ります。だから主婦が騙されやすい。夫が仕事ばかりで子育てに協力しないとか、姑との折り合いが悪

いとか、入口は何でもいいんです」(元主婦信者の夫)

五十歳の母を、半年かけて脱会させた大学生の息子が振り返る。

「父と相談して脱会させようとした理由は、『キリスト教会で開かれる勉強会に通ってわかったのは、母は最初は被害者でも、伝道や霊感商法に手を染めたら加害者になってしまった』ということ。そうなる前に食い止めなければ、と考えました」(同前)



まると強姦される」とまで吹き込んでいたからだ。

加えて昨今は、「娘に脱会を迫ったら、こう言われました。『安倍元首相がイベントに祝電をくれたのよ。変な宗教だったから、偉い人が応援するはずないでしょ?』娘は本当にそう信じているんです」(現役信者の父)

一年半に及ぶ話し合いの末に脱会した女性には、当時の心の内を明かす。

「脱会説得は、信仰を試される場だと教えられました。『信仰が足りないから、頑張るなり乗り越えなさい』という苦難に遭うんだ。頑張り過ぎて乗り越えなさいけない試練だ」と。統一教会を辞めたら悪いことが起こるという恐怖心や、死後の世界で苦しむという不安も植え付けられていました」彼女の妹が綴った手記に

は、こうある。

「姉の話は矛盾だらけだった。中でも特に驚いたのが、『教義には間違いがある。一〇〇%正しい教えを知ってからやめれば、やめた人たちは救いようがない。だから神の愛で、わざと間違いがつくってあるのだ』というものであった。こんな常識で考えれば笑ってしまふような話を真剣に信じている姉に、とても驚いた。その他、霊感商法、ニセ募金、統一教会が説く真理のためなら嘘も許される等々、言っていることはめちゃくちゃだった」

脱会カウンセリングに長年携わってきたキリスト教関係者は言う。

「信者が脱会する決め手は、家族の愛情です。家族みんなが、こんなにも自分のことを考えてくれていたんだと知って、情に打たれる部分が大きいです。統一教会で禁じられている、自分の頭で考えることができないようになるんです」

家族に対する信者の情が呼び覚まされたとき、「話し合いに応じてはいけない」

家族が地獄に落ちる

しかし、妹を脱会させた前出の女性が聞いたのは、予想もしない言葉だった。

統一教会は信者に「あなたには、家族を救う氏族メシアの使命がある。あなたが頑張らないと、お父さんもお母さんも、きょうだい全員も地獄に落ちる」と教え、恐怖を煽る。それに対して妹は、「家族の中で、なぜ私がメシアに選ばれたんだろ。こんなこと辛くてやめたい。でもやめられない」と、ずっと苦しんできたというのだ。

山上容疑者の母が多額の献金をしたのも、家族の幸せのためと信じ込まされたせいだ。家族を思いやる気持ちは、お互い変わらない。その気持ちを利用して家族

を引き裂き、不幸にするのが、統一教会の罪深さだ。家族には段階によって気持ちの変遷があると、前出のキリスト教関係者は言う。

「最初は『子どもを救い出したい。元の我が子に戻って欲しい』という純粋な愛情です。しかし統一教会に関する知識が増えるにつれ、どれだけ酷い団体かという認識が深まります。我が子可愛さを離れて統一教会の存在が許せないという考えに至れば、どんな犠牲を払ってでも取り戻そうという決意が固まります」

現実には、家庭をもった時点で諦めてしまう親もいる。一方で、生まれてくる子どもが新たな被害者だと考える親もいる。

三十五歳の娘が現役の信者で、合同結婚式を経て家庭をもっているという男性は、こう打ち明けた。

「今回、統一教会批判が高まって真っ先に気になったのは、娘の子どもたちになんか影響が及ぶかということです。学校でいじめられたり、受験に差し支えるのではないかと。批判を目にし

た娘が、自分の間違いに気付いてくれないものかと願っています」

韓国で家庭をもった十年になる娘の脱会を、決して諦めない母親もいる。

「連絡は絶えず取っています。どんなことがあってもあなたを受け入れるよ、という姿勢を示すためです。万にひとつ自分から辞めたいと思ったとき、帰って来られる場所でありたいのです。世間に向けて『ウチの子は信者です』と胸を張れる親はいません。それがなぜなのか、統一教会にはよく考えてもらいたい。『家族が統一教会に入ったおかげで、あの家はみんな幸せになった』と聞けば、誰もが競うように入信するでしょう。そうならないのは、統一教会が誰も幸せにしていないからです」

「全国統一協会被害者家族の会」は、定期的に相談会を開いたり、電話やメールで相談を受け付けている。今年の相談件数は、五月が六件。六月が十二件だった。七月は百九件。八月も百三十六件と急増した。

「青年、主婦を狙え」 霊感商法 マニュアル入手



「特に二〇〇九年以降、コンプライアンスの徹底に努めております」

統一教会(現・世界平和統一家庭連合)の田中富広会長は八月の記者会見でこう発言した。長らく被害を生み続けてきた統一教会の霊感商法。そこに警察のメスが入ったのが〇九年の「新世事件」だった。

当時の徳野統一教会会長は辞任

同社社員は、全員が統一教会の信者。渋谷駅の街頭で「先祖の因縁があなたの運気を悪くしている」「因縁を振り払うには印鑑を持つた方がいい」などと通行人に声をかけ、印鑑を売り捌いていたのだ。

「印鑑は三本百二十万円が基本セット。立件したのは氷山の一角で、新世は設立から十年間で約七億円を売り上げていた。収益の大部分は、教団本体に還流していた」(当時の捜査関係者)

当時、教団側は「当法人と『新世』は無関係」とシラを切り続けたが、「新世は教団の南東京教区傘下であり、社長のTは教区長の下につく伝道部長。

警察に押収された印鑑(写真は大阪で販売されたもの)

印鑑販売の顧客データは教区長に送られており、新世と教団は一体だった(同前)今回、小誌は、同社から押収された霊感商法のマニュアルなど内部資料を入手した。その中で新世は「特別伝道部隊」と呼ばれ、〈SKを出させるのが最高の教育〉などと記されていた。伝道は勧誘のこと。SKとは「信者献金」を意味する。つまり、新世は霊感商法を入口に、信者と献金の獲得を目的とする教団の前線組織だったのだ。

同社は、相手を入信させ、教育し、献金させるまでの過程を「生産ライン」と呼び、フローチャートも作成。信者化した者の一部は、被害者から、加害者になっていく。スタッフとして勧誘する人材についてマニュアルにはこう綴られている。

◆実践主婦になれる人(30~50代)主婦/時間がある、経済的余裕

◆献身青年になれる人
高齢者と学生はベケ印が付く。元信者が補足する。「実践主婦とは、教団の活動を行う婦人信者。献身青

年は集団生活しながら勧誘や物販など、教団の活動に専念する若者。献身者とは、いわば出家信者です」Tは、新世を「全国のもデル店舗」と自負。

「新世の売上は、約百社あった統一教会系の同種会社の中ではトップクラス。Tの作ったシステムとマニュアルは全国で利用されていた」(前出・捜査関係者)

新世の摘発後、統一教会の徳野英治会長は、信者の関与を認めて引責辞任。〇九年十一月、Tは有罪判決を受けた。判決文ではこう断罪されている。

「相当高度な組織性が認められる継続的犯行」(犯情は極めて悪い)

刑事事件で教団との関係が認定されたのは、これが初めてのケースだった。

「教団本部にも強制捜査が入るのではないかと、内部は大混乱に陥っていました」(本部勤務だった元信者)

どんなゲストを復帰するべきか?

1. スタッフ伝道 中核になれる人

- ◆実践主婦になれる人(30~50代)主婦/時間がある、経済的余裕
- ◆献身青年になれる人

2. 今までは印鑑及び念珠を授けていても、どこかにつながっていても大丈夫です。販売は問題ない、ゲストを受入れたものの勝ちである。
3. 新規トークの入金は必ず、抑え、追い付ける。自分が営業部の意識で責任を持つ。
4. 前線の時間を長く歩む場合は特に勧誘をハッキリして負債がないように歩む。いわれて歩む場合は勧誘を正して何時まで歩むかをハッキリして集中して歩む。
5. 新しい研修生はトーク出来たのの研修生

マニュアルには目標や勧誘の手順が書かれている